

●6年制学科のカリキュラムの特色

薬学科の特色は、5年次の本学独自研修カリキュラム「7つのコース実習・演習」+「4つの特別コース」です。国家試験受験に必須の各11週間の病院および薬局での実習の他に、専門的な7つのコース（病院薬学、地域医療、臨床開発、健康薬学、伝統医療薬学、海外医療研修、薬学研究）から将来の進路に即したコースを選択することができます。また、先端医療コース、薬学データ・サイエンスコース、グローバル薬剤師養成コース、感染症薬剤師コースの4つの特別コースも開講します。（4つの特別コースの他、特別研究コースも合わせて開講します）。「将来の目標に合わせて学ぶことができる」これが薬学科の大きな魅力です。1～3年次の早期体験学習・医療コミュニケーション教育、模擬症例解析学習により、薬物治療に責任を持てる薬剤師を養成します。患者さんの薬物治療の支えとなり、医療の現場で患者さんを直接サポートしていく薬剤師を目指します。

●病院や薬局の実務実習 特色や取り組み

薬剤師を含めた医療スタッフによるチーム医療が展開される「病院」、調剤をはじめとした各種薬剤師業務を担う「薬局」において、それぞれ11週間の実習を行います。

●病院実習先・薬局実習先

国立がん研究センター（中央病院、東大病院）、国立国際医療研究センター、国立成育医療研究センター、埼玉医科大学（病院・総合医療センター・国際医療センター）、自治医科大学附属さいたま医療センター、順天堂大学医学部附属（順天堂医院、練馬病院）、聖路加国際病院、東京医科歯科大学病院、東京慈恵会医科大学（附属病院・葛飾医療センター・第三病院・柏病院）、東京女子医科大学（病院・附属足立医療センター）、日本医科大学（付属病院・武蔵小杉病院）
他 100カ所
調整機構により実習先を確保

●アドバンスト教育について教えてください

6年制薬剤師教育においては通算5ヶ月間の実務教育が行われますが、本学ではこれに加えて7つの特別実習コース（病院薬学、地域医療（薬局）、臨床開発、伝統医療（漢方医療を含む）、健康薬学（衛生薬学関係）、海外医療研修、臨床研究）を設け、必修科目としています。学生は、希望に応じていずれかの特別実習コースを選択し、病院薬学コースと地域医療コースでは実務実習より高度な内容の実習教育を受けます。また、他のコースを選択した学生は病院や薬局以外の社会の各所における薬剤師の職能

を実務実習で経験することにより卒業後の進路選択に広い視野を持つことができます。

●多職種連携教育の具体的な内容

本学と日本社会事業大学、国立看護大学校の清瀬市内三大学では、包括連携協定を締結しています。教育・研究・社会貢献・産官学連携に必要な情報の共有を図ると共に、それぞれの大学の特色を生かして、これからの医療・保健・福祉分野の人材育成、社会貢献活動を行います。また防衛医科大学校の医学科、看護学科と本学薬学科の1年生、さらには、同大薬学科5年生、看護学科3年生と本学薬学科5年生を対象に、本学が提供する双方向授業システムを活用した多職種連携教育（IPE）を実施しています。

●多職種連携教育を行う医療施設名

防衛医科大学校 他

●薬剤師国家試験への取り組み

薬剤師を目指す者にとって、薬剤師国家試験合格は必須条件。薬学部（6年制）卒業生が受験する薬剤師国家試験は、医療の担い手として質の高い薬剤師が求められるという社会的要請を受け、必須問題（90問）、薬学理論問題（105問）、薬学実践問題（150問）が出題されます。本学では国家試験に関連した授業科目（講義・演習・実習）を多数開講するとともに国家試験問題解答・解説書を作成し配布して学生が活用しています。更に6年次後期には国家試験対策講座として総合医療薬学演習を開講し、きめ細かな指導を行なっています。「明業マイキャスト」では国家試験サポートして、この演習等の収録動画などを提供しています。何回でも繰り返し興味のある点やわからない点を自主的に学習し、より確かに知識を身に付けることができます。

●卒業研究について

6年制
6年制は、4年次に学生全員が研究室に所属し、卒業研究を履修します。研究室での実験・研究、少人数ゼミ等を通じて専門知識・技能を身につけます。また、卒業研究活動・卒研発表を通して、主体性、実効力など積極的の前に踏み出す力を養い、課題を発見し解決する能力、計画力、創造力などの考え抜く力、さらには、プレゼンテーション能力とディスカッション能力等、社会で多様な人々と仕事をしていくために求められる基礎的な力を身につけることができます。

4年制
卒業研究の配属研究室の多くは、薬学科（6年制）と生命創薬科学科（4年制）の学生の両方を受け入れています。生命創薬科学科の独自科目として、3年次後

期「薬科学総合実習・演習II」をブレ卒業研究と位置づけ、学生は学内研究室の1つに配属されます。そして4年次の卒業研究では、3年次に配属された研究室で引き続き研究を進めることが可能です。学内には、化学系・生物系・医療系などたくさんの研究室があり、これらの中から自分の興味や進路・目標に基づいた研究室を選び、さらには大学院との連携を介して専門分野の知識や技能をより深いものへと発展させることができます。

●4年制の教育目標・育成する人材

生命創薬科学科では、薬学部（6年制）として他学部との差別化を図るとともに、大学院と連動した研究体験を通して、医療に貢献する創薬の研究者・教育者・専門技能者を育成します。「生命科学と創薬化学の急速な発展に貢献できる知識と技術、問題解決能力を修得し、新薬を開発したい」と考える研究志向の人材育成をめざすのが生命創薬科学科です。

●4年制学科のカリキュラムの特色

生命創薬科学科の特色は、独自カリキュラムに組み込まれた少人数制行動型授業にあります。1～2年次では物理化学、有機化学、生化学、薬理学などの生命科学と創薬化学の基礎科目を重点的に学びます。3年次に生命科学と創薬化学の専門科目、医療・衛生科目を学び、4年次は卒業研究を大学院研究教育と連動させ専門分野の知識や技術を活用する総合力を養います。特に3年次前期の「薬科学総合実習・演習I」では、生命科学系・創薬化学系・医療系の研究室から4つを選択し、希望した研究室をローテーションして自分の専門分野を決める準備をし、続く3年次後期の「薬科学総合実習・演習II」では、前期の実習での体験をもとに1つの研究室を選択し、そこで長期間のブレ卒業研究に従事して、将来携わりたい研究分野を見定めることができます。また、高い知識や技術力を早期に修得するため、大学院の科目が4年次でも履修できます。

●4年制学科から大学院に繋ぐ取り組み

生命創薬科学科では、まず1年次後期の必修科目「薬の発見・発明」において、情報収集能力、問題発見・解決能力およびプレゼンテーション能力を身につけるとともに、2年次必修科目「創薬科学入門演習」（通年）において、学内研究室の様々な研究内容に触れることにより研究へのモチベーションを高めています。そして3年次には、前期・後期ともに火曜日から金曜日の午後～必修科目「薬科学総合実習・演習」が割り当てられており、学生は基本的に研究室での研究活動に参加します。続く4年次には、科目の多くが選択科目となっているため、ほ

とんどの時間を卒業研究に費やすことが可能です。これら学部での研究活動を大学院でさらに発展させることができるよう、大学院進学後も同じ研究室で研究を継続することができるシステムを整えています。

●入試の変更点 ありません。

●入試に合格するためのアドバイス

本学では、学内イベントや相談会などにご参加いただいた方に過去問題集を進呈しています。

また、9月下旬には、前年度の選抜試験問題をもとにポイント解説を行う「進学説明会」を開催予定です。是非参考にしてください。

いづれの科目も高等学校での学修が非常に重要になりますので、教科書や定期試験の勉強をしっかりと行い、自分自身にあった問題集を解くなどしながら、志望校の傾向・出題形式にそった受験準備をしてください。
※本学 HP より、イベントの最新情報をご確認ください。

●過去問を公開しておられますか 非公開です。

●面接や小論文について教えてください 【公募制推薦の面接について】

・グループ面接(グループ内でのディスカッションは無し)。

・質問内容は、志望理由書などの出願書類を参考にすることがある。

・学力試験重視で、面接、出願書類は全体の10%程度の配点。

面接官2名 生徒4-5名 時間15分-20分

●大学独自の奨学金制度

<https://www.my-pharm.ac.jp/gakusei/scholarship.html>

◆特待生制度 [減免]

入試の成績により授業料を免除する制度です。

入学特待生 A

一般入試 B 方式前期・推薦入学者特待生選抜試験のうち成績上位者について、薬学科10名、生命創薬科学科3名の3年間(注)授業料全額[薬学科4,020,000円、生命創薬科学科3,300,000円]を免除します。

入学特待生 B

上記[1.]に次ぐ成績上位者について、薬学科10名、生命創薬科学科3名の2年間(注)の授業料全額[薬学科2,680,000円、生命創薬科学科2,200,000円]を免除します。

入学特待生 C

上記[2.]に次ぐ成績上位者について、薬学科10名、生命創薬科学科3名の初年度

授業料全額[薬学科1,340,000円、生命創薬科学科1,100,000円]を免除します。
(注)入学特待生AおよびBは、1年ごとに継続可否の審査を実施する。審査内容は各学年末の成績が、各学科の上位20%以内であることとする。

◆地域枠奨学金[給付]

薬学部が設置されていない県※における薬剤師の地域偏在に対して、当該県出身者で本学卒業後、直ちに当該県の薬局・医療施設(病院・診療所)又は衛生行政機関に9年間薬剤師として勤務することを条件として、在学中(6年間)の授業料相当額を「地域枠奨学金」として全額給付します(年間134万円×6年間=804万円)。

※秋田、山形、茨城、福井、山梨、長野、奈良、鳥取、島根、高知、佐賀、大分、鹿児島、沖縄
○在学中に出身所在の県に薬学部が新設された場合においても本奨学金は継続されます。

ただし、同県にUターン就職をするという条件も継続となります。

なお本制度は、地域枠選抜を受験して入学する2023年度入学生から適用します。

◆明治薬科大学奨学金 [給付]

成績優秀、心身健全かつ向学心旺盛な学生に奨学金20万円を年1回支給。

2022年度は1年～6年合計103名に支給(各学年18名以内)。

◆卒業生子女学納金減免措置制度

公募制推薦入試(薬学科専願制、生命創薬科学科併願制)では、両親または祖父母のいずれかが本学の卒業生である場合、対象となる合格者のうち成績上位3名以内の者の入学金を免除します。

※なお、薬学科併願制は、卒業生子女学納金減免措置制度の対象外となります。

◆恩田剛堂特別奨学金 [給付]

本学奨学生規程に基づき、学部入学者で両親もしくは祖父母のいずれか1名が現に明治薬科大学維持員である者に対して、入学年度中に1回限り10万円が給付されます。本奨学金は、維持員制度の啓発を目的としています。

◆次世代を担う研究者育成奨励金[給付]
本学奨励金規程に基づき卓越した研究成果の発表の奨励として学会等から賞を受賞した者(演者)に1万円を支給します。

◆維持員抛出彩奨学金[給付]

維持員抛出彩奨学金
維持員抛出彩奨学金
高度な研究を展開する研究機関や大学等の高等教育機関に3か月以上海外留学を行う者への支援(渡航時に一人当たり100万円を上限として往復の航空費実費相当額)。

◆維持員抛出彩特別支援奨学金

強い勉学意欲を持ちながら経済的理由により修学が困難となった者への支援(半期分の授業料相当額)。

◆維持員抛出彩特別表彰奨学金

社会に対して本学の名誉となる活動を

行った者、または学内にて特筆すべき好ましい活動を行った者などへの表彰(一人当たり3万円)。

◆めざせ明薬・予約型奨学金 [給付]

※令和4年度入学者より実施
入学試験の出願前に申請を受け付け、奨学金採用候補者(薬学科70名以下、生命創薬科学科15名以下)を決定します。
候補者が本学の指定する入学試験に合格し入学した後に、所定の手続きを行うことで奨学生として正式に採用され、奨学金(100万円)を給付します。
令和5年度入学分の申込は終了しました。

◆TA(ティーチング・アシスタント)・RA(リサーチ・アシスタント)・SA(チューデント・アシスタント)制度

TA制度は、大学院博士課程(前期)の学生が学部学生の教育補助業務に従事すると月額172,000円を限度に支給。

RA制度は、博士課程(後期)の学生が研究プロジェクトで研究補助業務を行うと月額85,000円を支給。

SA制度は、学部学生が事前実務実習等の補助業務を行い、実習能力の育成の一助に資することを目的としています。

◆その他団体の奨学金

本学独自の各種給付型奨学金の制度以外に、日本学生支援機構やその他、地方公共団体や民間団体の奨学金制度があります。

募集や手続き方法等については学内のポータルサイトや学内メール等で案内いたします。

◆日本学生支援機構奨学金 [給付・貸与]

2022年度の奨学生は給付102名、第一種231名、第二種420名(毎年4月、9月頃に学内で募集を行います。)

●地域のアパート・マンションのモデル家賃

回答なし

●オープンキャンパスの日程

2023年7月29日・7月30日

詳細は本学HPをご確認ください。